長野県教育委員会

研究成果報告書

１．研究概要

長野県教育委員会では、「信州型ユニバーサルデザイン」として全ての児童生徒が学びやすいように教員の意識向上に取り組んできたが、令和５年度より認知や発達に特性を抱える児童生徒にも対応できるよう研究を進めている。

具体的には、特性を包み込む授業の在り方や、個々の特性を把握するアセスメント方法、特性に応じた教育方法についての研究を７校で進め、事業推進協議会やワーキンググループで有識者からアドバイスも受けている。

また、大学や民間団体等との連携により、ジュニアドクター育成塾やアドバンス・ラーナー向けサマースクール等の学校外の新たな学びの場の提供に取り組んだ。

２．研究内容

（１）研究課題

（研究領域１）学校内での取組に関すること

- ☐ a 単元内自由進度学習や異年齢集団による学習、理解の状況に応じた課題の設定など、特異な才能のある児童生徒をはじめ子供の関心等に合った授業や学習活動の在り方
- ☑ b 特異な才能のある児童生徒を含む全ての子供たちが互いに尊重される授業や学級経営の在り方など、多様性を包摂する学校教育環境の在り方
- ☐ c 児童生徒が普段過ごす教室や学校内の他の教室等、指導・支援に取り組むための多様な学びの場の設定や連携の在り方や、過ごしやすい居場所としての環境整備・人的サポート等の在り方
- ☑ d 特性等を把握するためのサポートを受けながら行う特異な才能のある児童生徒への指導・支援の在り方
- ☐ e 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応の在り方

（研究領域２）学校と学校外との連携に関すること

- ☑ f 学習面・生活面にわたる学校と学校外との機関との連携による指導・支援の方法
- ☐ g 特異な才能のある児童生徒に支援を提供するための学校外の機関の在り方や、その機関と連携して学習を行う際の学習状況の把握や学習評価の在り方
- ☐ h 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応

（研究領域３）児童生徒を取り巻く環境の整備に関すること

- ☐ i 教職員への研修の在り方や、保護者、地域社会の理解の醸成の在り方
- ☐ j 各主体が保有する情報集約や、主体間の情報連携・共有の在り方
- ☐ k 児童生徒の機微な情報の共有の在り方、進学時の情報の引き継ぎなど学校段階間の連携の在り方

（２）研究における取組

＜内容＞

（研究領域１）

①研究領域１ｂ

（特異な才能のある児童生徒を含む全ての子供たちが互いに尊重される授業や学級経営の在り方など、多様性を包摂する学校教育環境の在り方について）

この研究では、「学びの充実」WG を立ち上げ、小学校４校、中学校１校の研究校を指定し、月２回の定期ミーティングと WG での有識者の助言を参考に取組を進めた。合わせて各研究校で進められるよう教員を加配した。

本年度の第１回事業推進協議会において、多くの有識者から「先生方のマインドチェンジのための実態把握の重要性」を指摘され、有識者の一人である福本理恵氏と（株）SPACE の協力のもと、現状の授業に関する先生方の意識調査を研究校で行った。

その結果から、「教師からみる、認知発達特性と授業の困り感の関係」をまとめ、

・自ら学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整する姿
・知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を身に付け、学びに満足する姿
・認知発達に特性がありそうな児童生徒の姿

を見える化できるよう仮説にまとめた。

資料６の左下に位置する児童生徒は、特別な支援を含み対応していく必要がある。一方右下に位置する児童生徒は、授業内容の方が自分の能力より簡単で、課題への意識が高まらず満足できない傾向がある。資料７の色の濃い部分は教師が指導に難しさを感じている範囲である。これらを重ねると資料８のようになり、右下に特定分野に特異な才能がある児童生徒が表出してくるのではないかという議論に発展した。

その議論の要約は資料９～10 の通りである。

更にそれを踏まえ、１年目の成果、２年目で目指すイメージをまとめた。

②研究領域１ｄ

（特性等を把握するためのサポートを受けながら行う特異な才能のある児童生徒への指導・支援の在り方）

この研究では、「アセスメント・教材提案ツール活用実証校」WG（以下、「アセス WG」とする）を立ち上げ、小学校３校、中学校２校の研究校を指定し、月２回の定期ミーティングと WG での有識者の助言を参考に取組を進めた。アセスメント・教材提案ツール活用実証校（以下、「アセス実証校」とする）には、県内、通級指導教室設置校５校を選定し、担任の経験や感覚だけでは気付きにくい一人一人の特性の早期発見や、個別学習で身につけた力を在籍学級で発揮すること等を目指す姿として、通級指導教室と通常の学級担任との連携に視点を当てた実践研究を進めてきた。その際、民間企業である（株）LITALICO が開発した教育ソフトも効果的に活用するなどして、主に次の２点について実践を通して研究を進めた。

①的確で簡便な「アセスメント」と「個に応じた支援のあり方」

・既存のアセスメントツール（LITALICO 教育ソフト等）を活用し、通常の学級担任でも簡便に活用できるアセスメントとアセスメントを活かした支援について実践を通して検討を行った。

②通常の学級と通級指導教室の連携のあり方

・第二層である通級指導教室を利用する児童生徒が第一層である通常の学級での学びを充実させていくため、アセス実証校では、通級指導教室で身につけた力を通常の学級で発揮するための教員間の連携のあり方等について実践を通して検討を行った。

（研究領域２）

研究領域２ｆ

（学習面・生活面にわたる学校と学校外との機関との連携による指導・支援の方法）

本年度より学校の枠を超えたサードプレイスとしての「学びの場」について、既存のものを整理しつつ、「特定分野に特異な才能がありそうな児童生徒」のニーズにも応えられるよう新設した。

①信州Makersキャンプ、教室【既存】

授業で学習したプログラミングやものづくりをさらに詳しく、専門的に学びたいと思っている長野県内の小学校３年生から中学校２年生までを対象に計４日間開催。民間のゲーム制作会社「アソビズム」からプログラム、講師の提供を受け、信州大学教育学部村松浩幸研究室、小倉光明研究室と連携し、長野県教育委員会が主催して実施。のべ74名が参加した。

②信州大学ジュニアドクター育成塾への支援【既存】

信州Makersキャンプ、教室で学んだ児童生徒の中で、大学の先生から専門的な知識を学び、能力を伸長する体系的育成プランを紹介し、後援、協力という立場で携わっている。対面・オンラインで月２回のペースで半年間開催。信州Makersキャンプ、教室に参加した児童生徒を含め、申込みが80名あり、選考後50名が参加した。（長野県45名）

③アドバンス・ラーナー※向けのサマースクール、ウインタースクールの開催【新設】

（※知能が高く学びの習熟が早い子や、好奇心が極めて強い子のこと。）

一般社団法人 Education Beyond と連携し、当該法人が主催、長野県（知事部局）及び長野県教育委員会が共催となり開催。

概ね１か月間、大学生等のチューターが主にオンラインミーティングにて伴走支援し、子どもたちは自身が設定した研究テーマを深掘り。プログラムの初日及び最終日には対面イベントを開催し、参加者同士の交流や研究発表会を実施。

長野県内の公立小学校及び中学校には市町村教育委員会を通じて周知、私立小学校及び中学校（義務教育学校及び中等教育学校を含む。）並びにフリースクールには知事部局を通じて周知を行った（参加対象は、サマー：小学校４年生～６年生、ウインター：小学校３年生～中学校３年生）。周知の際は、サマースクール等の趣旨等を記載した教員用手持ち資料も用意し、展開した。

また、ウインタースクール開催の際には、教育関係者向けの現地見学会を併せて開催し、アドバンス・ラーナーに係る認知向上に取り組んだ。

サマースクール＜県内５名、県外３名　計８名＞

ウインタースクール＜県内13名、県外２名　計15名＞

＜経過＞

月	取組内容
４月	◇「学びの充実」WG①：有識者２名＋研究校 （方向性の確認、年間計画の作成、有識者、指導主事マッチング） ◆「アセス」WG①：有識者２名＋アセス実証校＋民間教育業者 （アセスメント・教材提案ツールについての説明、実施の計画） 【◇◆４月 18 日（火）実施】

５月	■　第１回事業推進協議会：有識者＋研究校・アセス実証校＋民間教育業者 （現状・課題共有、各研究校の役割）【■５月 17 日（水）開催】
６月	☆指導主事による学校訪問支援の開始 STEAM 系イベントの開催（信州大学教育学部、長野県総合教育センター） 【イベント Makers 教室：６月３日（土）、４日（日）開催】 ☆オンラインミーティング【６月８日（木）、22 日（木）実施】
７月	◆「アセス」WG②：有識者２名＋アセス実証校＋民間教育業者 （情報交換、アセスメント・教材提案ツールの分析Ⅰ） ◇「学びの充実」WG②：有識者２名＋研究校 （授業改善に関する情報交換、分析Ⅰを踏まえた授業構想） 【◇◆７月 13 日（木）実施】
８月	研究校において研究チームの研修【８月 24 日（木）実施】 令和５年度アドバンス・ラーナー向けのサマースクールの実施 【７月 29 日（土）～８月 19 日（土）実施】 STEAM 系夏休みイベントの開催（長野県総合教育センター） 【８月５日（土）、6 日（日）実施】 ☆オンラインミーティング【８月 24 日（木）実施】
９月	◆「アセス」WG③：有識者２名＋実証校＋民間教育業者 （情報交換、アセスメント・教材提案ツールの分析Ⅱ） ◇「学びの充実」WG③：有識者２名＋研究校 （授業改善に関する情報交換、分析Ⅱを踏まえた授業構想 UPDATE） 【９月 14 日（木）、28 日（木）実施】
10 月	☆オンラインミーティング【10 月 12 日（木）、26 日（木）実施】
11 月	■　第２回事業推進協議会 （課題共有・進捗確認、まとめ方についての共有） 【■11 月 22 日（水）開催】 ☆オンラインミーティング【11 月９日（木）実施】 ◎文部科学省ヒアリング：長野市立鍋屋田小学校、長野市立山王小学校 【11 月８日（水）実施】
12 月	◆「アセス」WG④：有識者２名＋アセス実証校＋民間教育業者 （情報交換、アセスメント・教材提案ツールの分析Ⅲ） ◇「学びの充実」WG④：有識者２名＋研究校 （授業改善に関する情報交換、分析Ⅲを踏まえた授業構想 UPDATE） 【◇◆12 月 14 日（木）実施】 令和５年度アドバンス・ラーナー向けのウインタースクールの実施 【12 月 17 日（日）～１月 14 日（日）実施】
１月	「令和５年度　学びの改革フォーラムながの」で研究報告、実践発表 【１月 26 日（金）実施】
２月	令和５年度成果報告書の作成、令和５年度成果報告書の完成
３月	全県指導主事、専門主事会議において研究報告　【３月 12 日（火）実施】 ■　第３回事業推進協議会（取組報告とまとめ）【３月 14 日（木）開催】

３．実証研究の成果や課題

＜成果＞

（１）教員のマインドセットの重要性

現行の学習指導要領の主旨の浸透とともに、令和の日本型学校教育の理解も進む中、教師が教える授業から多様性のある児童生徒とともに作り上げる授業へ転換する意識が高まりつつある。

しかしながら、その重要性は分かっているもののいざ授業になると一斉一律の授業になっ

てしまう現状もあるため、研究校において学校全体での研修や研究が進むよう心掛けた。例えば、研究校の佐久市立高瀬小学校や塩尻市立桔梗小学校では、教師が授業に臨む際のチェックリストや心得を独自に作成し、実践を進めた。

加えて、長野市立山王小学校では、４年生の体育で、技も練習メニューも全て子どもたちが計画する授業が生まれ始めるなど授業改善が進んでいる。

こういった実践が進む中で、教室で困り感を抱えている児童生徒には、特別支援学級や通級指導教室等での支援が必要とされている他に、授業内容を簡単に感じている児童生徒には、授業への興味・関心が高まらないことが多いということがわかってきた。

特定分野に特異な才能のある児童は、後者の中に存在する可能性が高いことも見えてきた。

以上をリーフレットにまとめ、県内の市町村教育委員会、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校に配布し、長野県教育委員会のホームページからも情報を発信している。

（２）アセスメントツールを用いることで学校全体での取組に変容しやすい

学校には小さなSOSを出したり、それもできずに静かに困っていたりする児童生徒がいる。しかしながら、その支援は、担任教諭や担当の意欲や力量に頼る傾向がある。そのため、長野市立鍋屋田小学校では、既存のスクリーニングに応じ、必要に応じたアセスメントツールの活用による支援の方向を研究した。

具体的には、子供たちのSOSを職員とどのように共有していくかのフローを示し、必要に応じてスペシャルサポートチームが対応する仕組みを構築した。

多くの教員が共有するためには、教員の感覚だけでなく、アセスメントの結果を用いることで、情報共有をスムーズに行うことができる。職員全体での取組にも発展しやすい。そのため民間フリースクールとの連携も可能になってきている。

（３）学校外での学びの場の必要性と県教育委員会が果たすべき役割

多様な児童生徒全てを学校という環境で対応するには限界もあり、サードプレイスとしての「学びの場」に着目し、既存の県の学びの環境を整理しつつ、特定分野に特異な才能のある児童生徒に対応できるよう一部新設した。

・授業の延長で更に学べる環境
　（信州Makersキャンプ、教室）【既存】→　県内74名参加
・大学の先生から専門的な知識を学ぶ半年に渡るプログラム
　（信州大学ジュニアドクター育成塾）【既存】→　県内45名参加
・アドバンス・ラーナー向けサマースクール、ウインタースクール
　（主催：一般社団法人 Education Beyond、共催：長野県及び長野県教育委員会）【新設】→　のべ県内18名参加

アドバンス・ラーナー向けサマースクール、ウインタースクール実施後の参加者アンケートからは、実験、試行錯誤、調査、仲間からの刺激等の方法を通して、一人ではできなかった、普段の学校環境では実現されてことなかった・できなかった知的好奇心を深掘りできたこと、また、同じような仲間の存在や広がりを体感し、自然体、等身大の自分での居場所が確認できたことが窺えた。

また、県教育委員会が積極的に関わることで、サードプレイスの重要性や他機関との更なる連携について発信できた。

一定の参加ニーズがあることも証明でき、来年度以降も全て実施可能の方向である。加えて、アドバンス・ラーナー向けの企画を含む学校外の学びの場について県教育委員会が連携することにより、募集を呼びかける際に教員自身が認知し、今後取組を加速するための素地づくりに役立った。

参考：サマースクールの様子＜動画あり＞

https://newsdig.tbs.co.jp/articles/sbc/676071

尚、信州大学ジュニアドクター育成塾、アドバンス・ラーナー向けサマースクール等については、学校外の教育・支援として、子どもの才能伸長や才能のある子の困難への支援を趣旨とするプログラムとして、文部科学省令和５年度「特定分野に特異な才能のある児童・生徒への支援推進事業」（特異な才能のある児童・生徒の特性を把握するツールや特異な才能のある児童・生徒の支援に資するプログラム等のデータ収集・整理）中間報告書に掲載されたことを申し添える。（中間報告書内　1.1.1大学が管轄するプログラム、1-2-2民間団体が管轄するイベント）

＜課題＞

（１）教員のマインドセットの継続的な支援

「一度マインドセットが行われればOK」ではなく、継続的に研修を行うことや各学校が主体的に授業改善の研究を進めていく必要を強く感じている。そのためには、教員のマインドの変化の意識状況を把握し、より効果的な研修や研究を構築する必要がある。令和５年８月に１回目の調査を行っているため、令和６年４月や９月に調査を行い、有識者と共に分析を行い、特定分野に特異な才能がある児童生徒に対する現場の教員の理解を高め、授業改善や全てを包み込む学校づくりを実現していく。

＜令和６年の取組予定＞

・学びの充実WGでは、令和５年度にまとめた仮説を研究校で実証し、事例を収集
・収集した事例をタイムリーにホームページから発信
・事例と教員のマインドセットの関連をまとめる

（２）教師が行うアセスメントの負担軽減と児童生徒の自己理解の促進

アセスメントを広範囲に精緻に行うことは理想的ではあるが、学校現場では、負担が大きく現実的ではないことが分かった。

小学校では、長野市立鍋屋田小学校の実践を参考に、簡易なスクリーニングとアセスメントを組合せ、学校全体で組織的に取り組んでいく取組を進める。

中学校では、（株）SPACEと連携し、認知や発達の特性や興味関心を把握するアセスメントを実施し、自分のもっている才能や自分の学び方の癖を見える化し捉えやすくする。中学生という発達段階を考慮し、生徒が自身の学び方の特性について、理解が進むようにする。生涯にわたって学び続けられる素地を醸成できるよう挑戦する。

（３）学校外の新たな学びの場の継続的な提供

アドバンス・ラーナー向けのサマースクール、ウインタースクールについて、初回とな

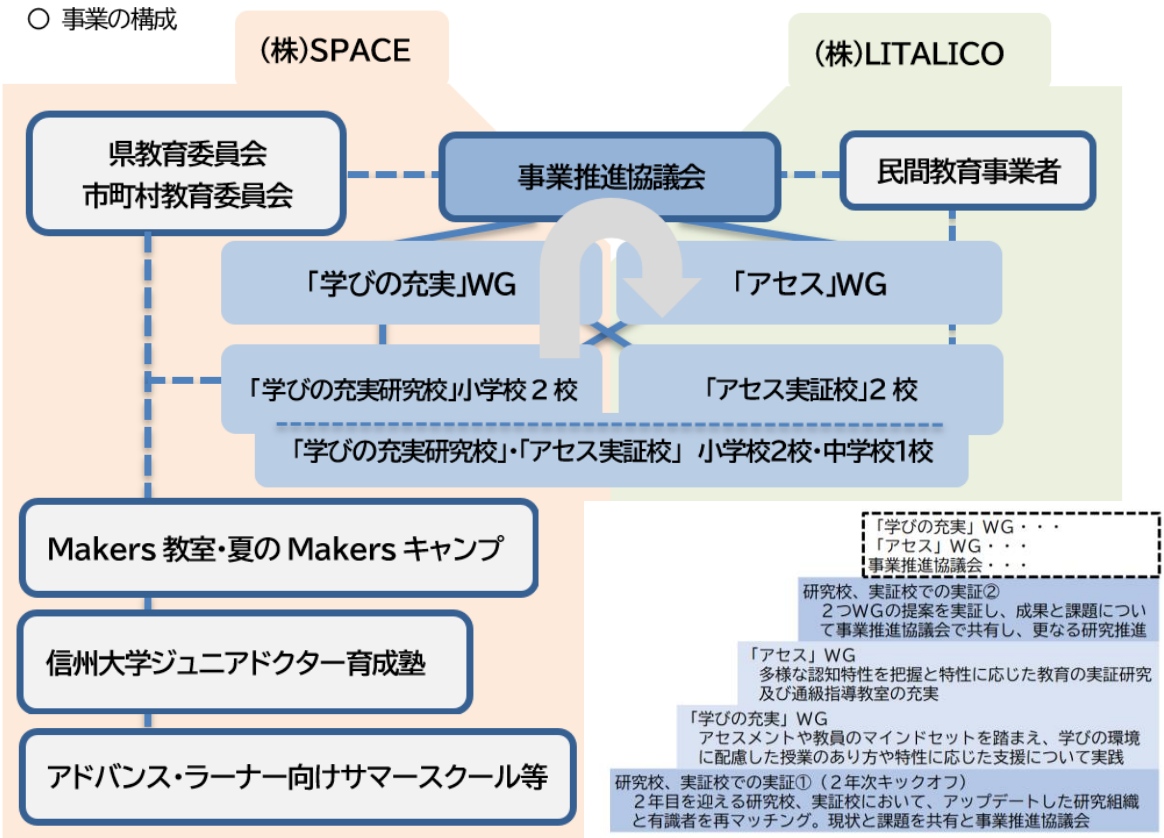
るサマースクール開催の際は、関心はあるものの参加申込に至らないケースが相当数あり、アドバンス・ラーナーに係る認知の不足が課題として挙がった。

一方で、サマースクールに次ぐウインタースクール開催の際には、サマースクール開催時の学校等への周知や報道等の影響もあり、徐々にその認知の向上が見られ、参加者数が大きく伸びたことから、取組の広がりに向けては継続的に開催を進めていく必要がある。

４．参考資料

資料１

○ 事業の構成



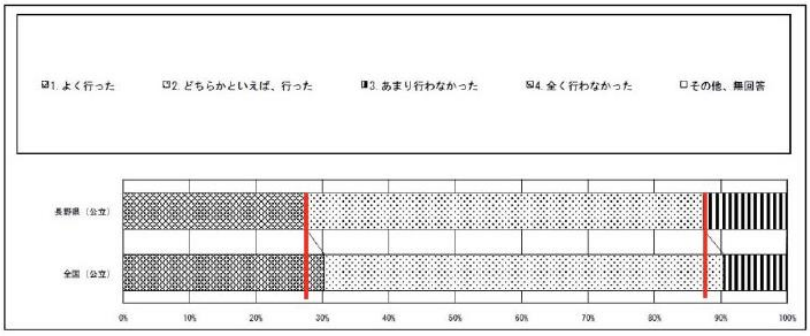
長野県における授業の現状（小学校）

資料２

R５
（３３）

質問事項：調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他、無回答
長野県（公立）	27.5	59.8	12.7	0.0							0.0
全国（公立）	30.3	60.1	9.5	0.0							0.1



課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

長野県の授業も一斉一律の授業から変化しつつある

全国学力・学習状況調査　小学校学校質問紙

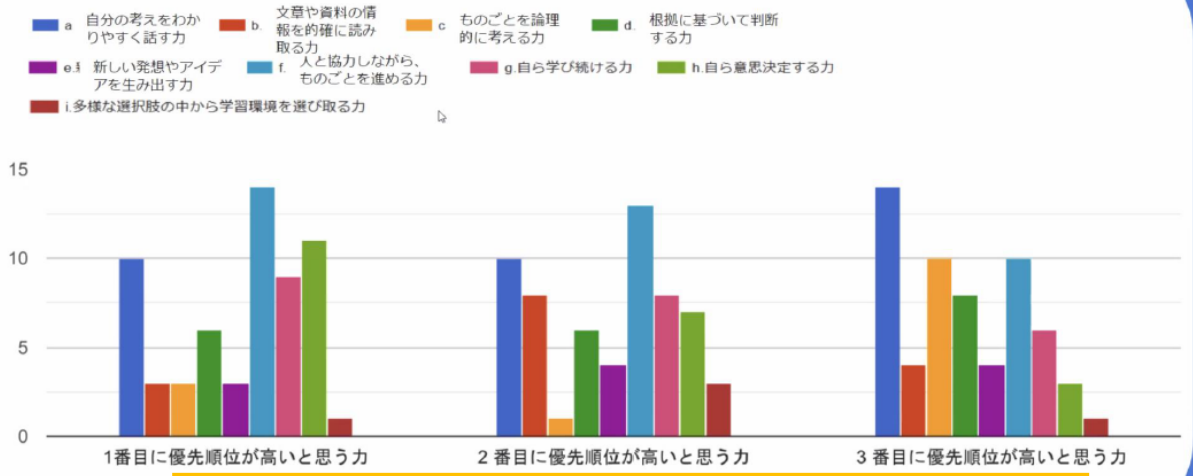
長野県教育委員会学びの改革支援課　×　SPACE

先生方へ深堀り① ＜学びの充実研究校＞

資料３

児童生徒の状況について

あなたが児童・生徒に身につけてほしいと思っている力を、優先順位の高い順に３つ教えてください。



「人と協力しながら、ものごとを進める力」
「自分の考えをわかりやすく話す力」
などを重視している

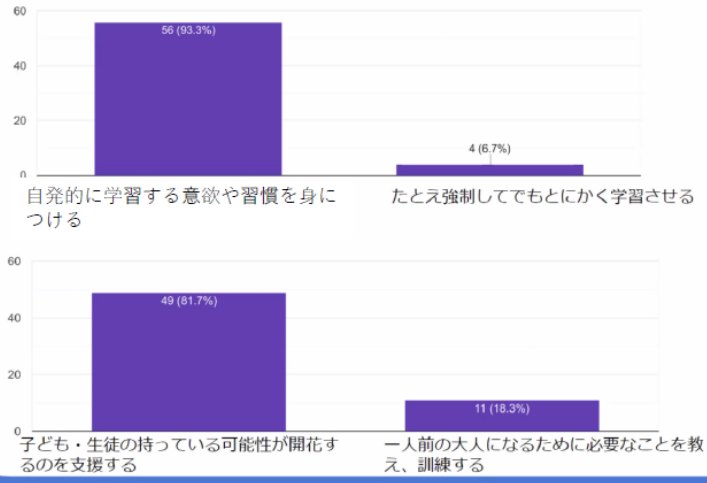
長野県教育委員会学びの改革支援課　× SPACE

先生方へ深堀り② ＜学びの充実研究校＞

資料４

指導観について

あなたは、授業や生活指導・生徒指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。
あなたがあえていえば重視していると思うほうの番号を選んでください。



・自発的に学習する意欲や習慣を身に付けること
・子ども・生徒の持っている可能性が開花すること
への支援に意識

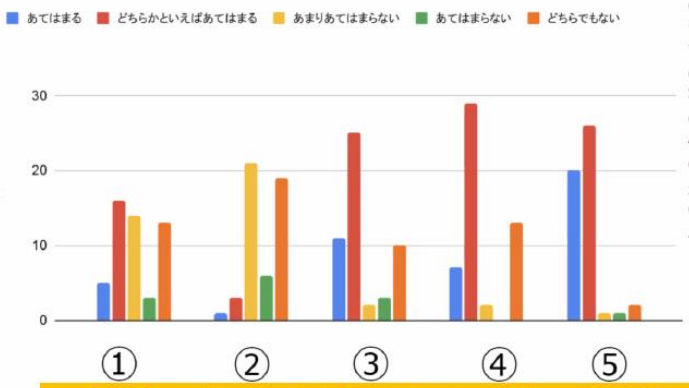
ACE

資料５

先生方へ深堀り③ ＜学びの充実研究校＞

教科指導について

教科指導についてお教えください。

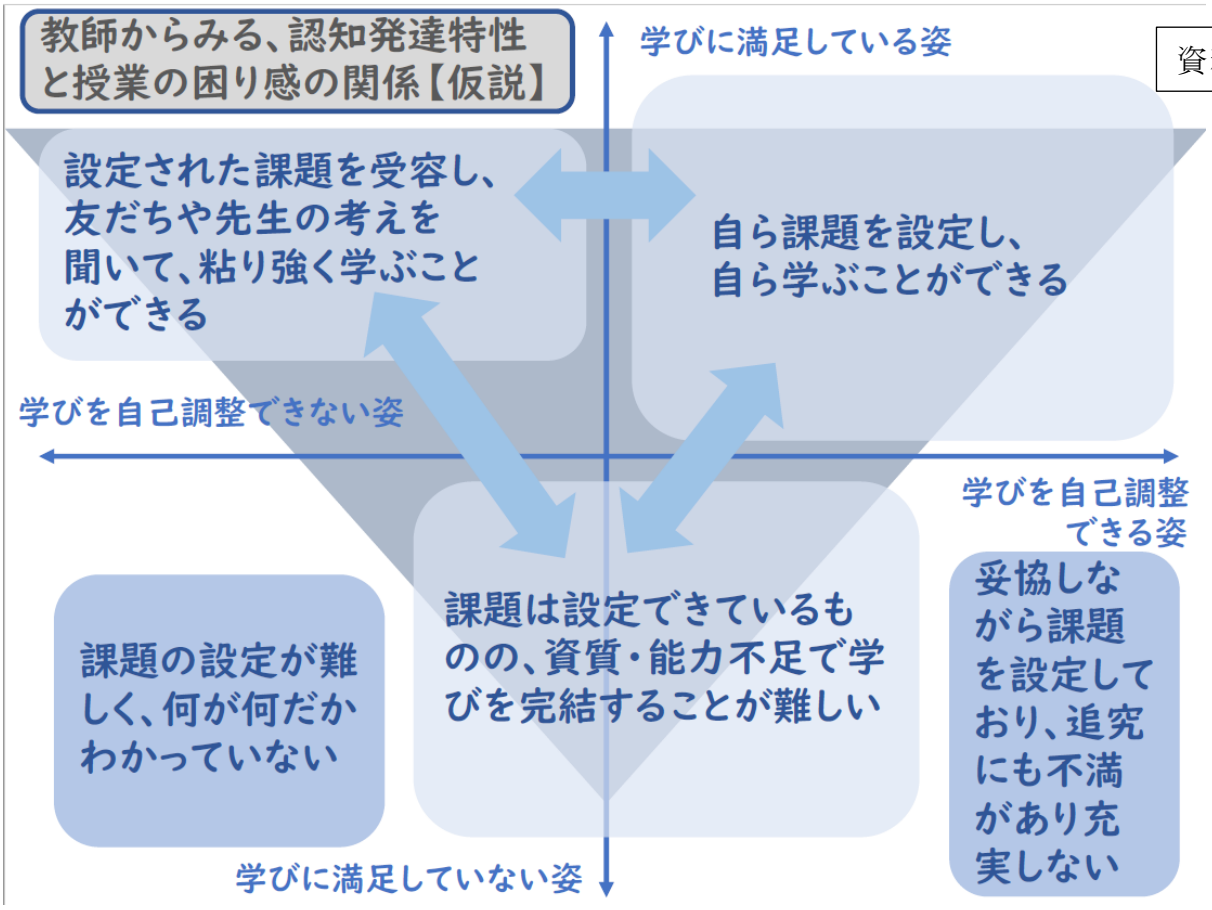


①授業の中で、児童生徒が学習方法や学習内容を自由に選択する場面が設けられている
②授業時間中、教員が説明する時間が７割を超えている
③テストやノート等提出物の他にも、評価の視点を設けている
④多様な児童生徒が参加できるような工夫をしている
⑤勉強が苦手な児童生徒に対して、努力以外の要因について考えることがある

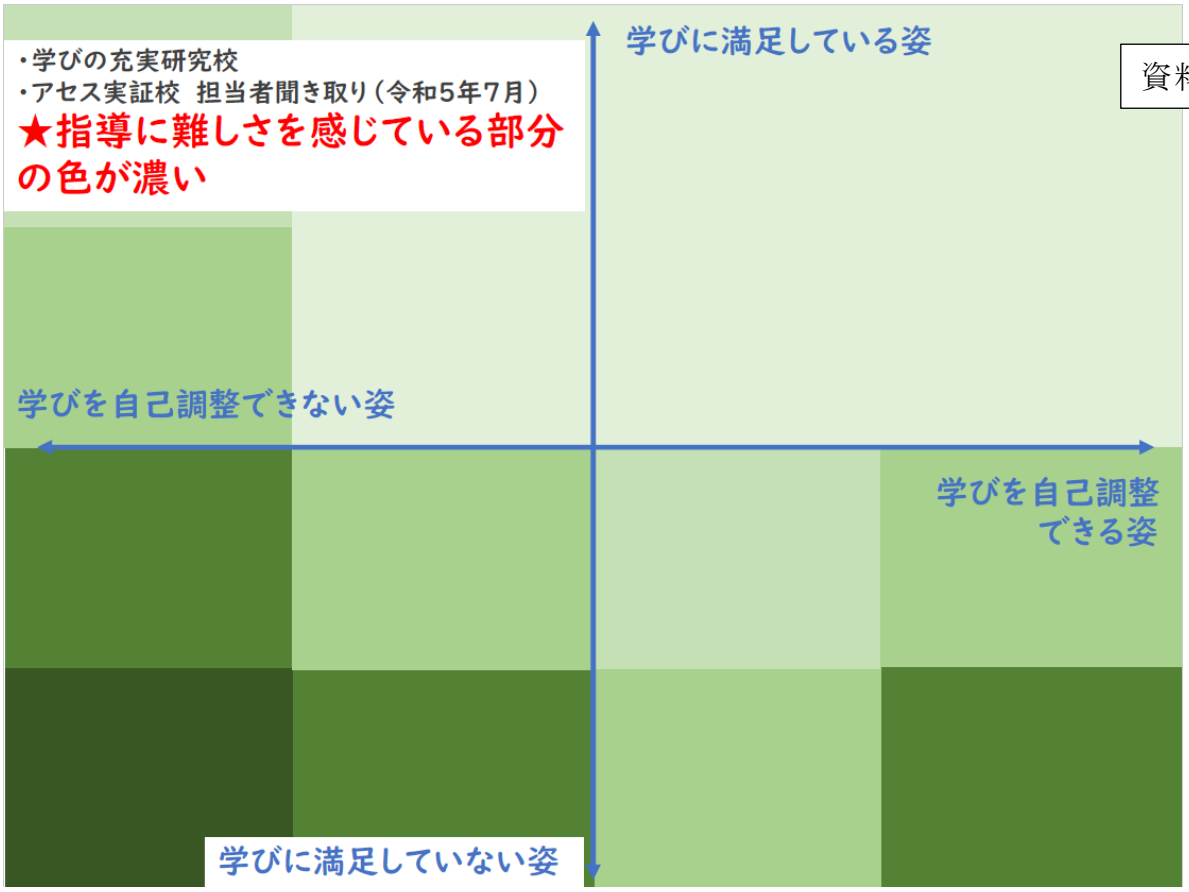
・多様な児童生徒が参加できる授業の工夫
・勉強が苦手な児童生徒の努力以外の要因
に目は向いているが、
「児童生徒が学習内容、学習方法を自由に選択する」
という場面は少ない。

SPACE

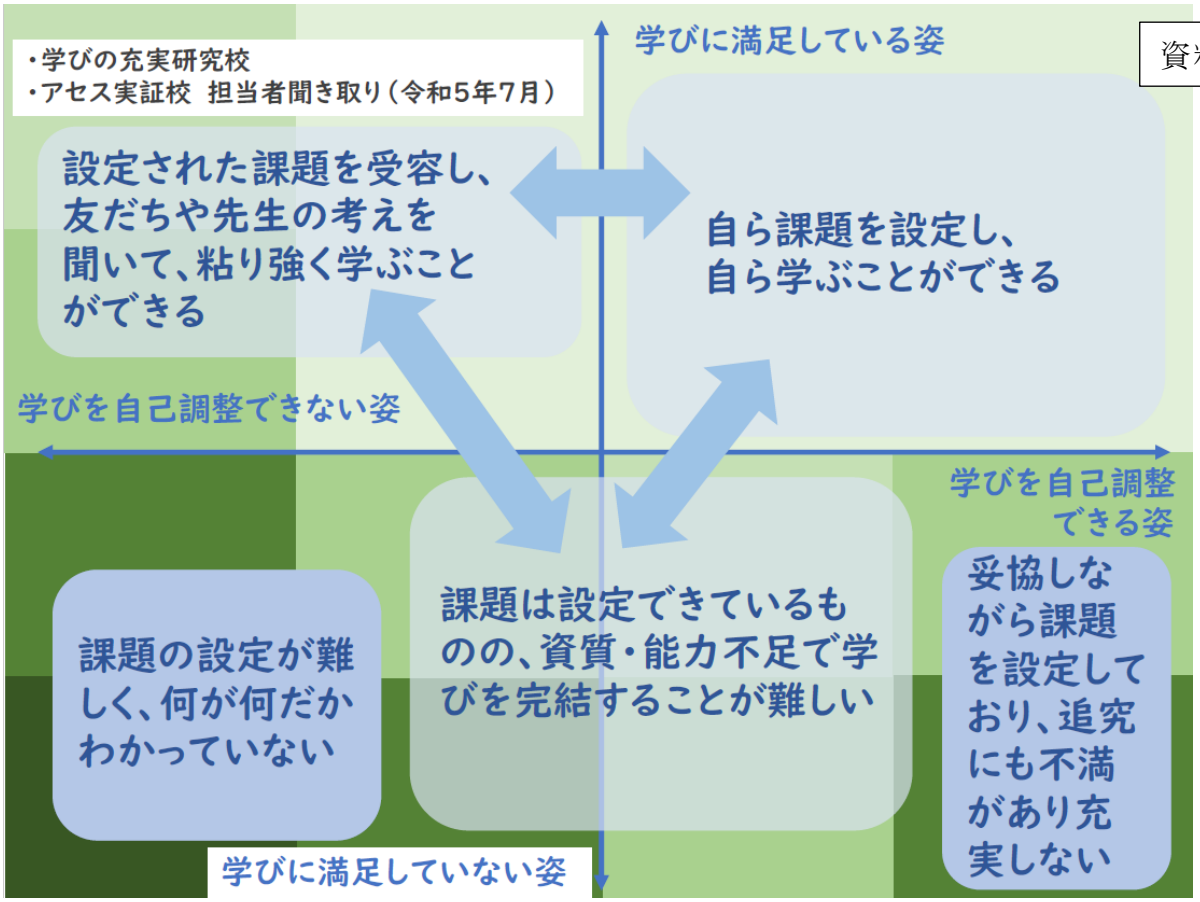
資料６



資料７


・学びの充実研究校
・アセス実証校　担当者聞き取り（令和5年7月）
★指導に難しさを感じている部分の色が濃い
学びに満足している姿
学びを自己調整できない姿
学びを自己調整できる姿
学びに満足していない姿

資料８


・学びの充実研究校
・アセス実証校　担当者聞き取り（令和5年7月）
学びに満足している姿
設定された課題を受容し、友だちや先生の考えを聞いて、粘り強く学ぶことができる
自ら課題を設定し、自ら学ぶことができる
学びを自己調整できない姿
学びを自己調整できる姿
課題の設定が難しく、何が何だかわかっていない
課題は設定できているものの、資質・能力不足で学びを完結することが難しい
妥協しながら課題を設定しており、追究にも不満があり充実しない
学びに満足していない姿

資料 9

風呂敷で包み込むようにその存在を認めていく…これが多様性、そんな学校や学級を目指したいですね

そうなると信州型UDを活かしつつ、授業改善をすすめる授業づくりがヒントになりそうですね

アセスメントを取ることで授業改善は格段にしやすくなると思いますし、先生方のマインドセットや学校外の学びの必要性にもつながる気がします

認知発達特性を理解するという点では、デジタル教科書の使い方にも特徴が表れてきているので参考に

授業改善とアセスメントの関係は、整理し、現場の参考になるものを示せる工夫をしてみたいと思います

資料 10

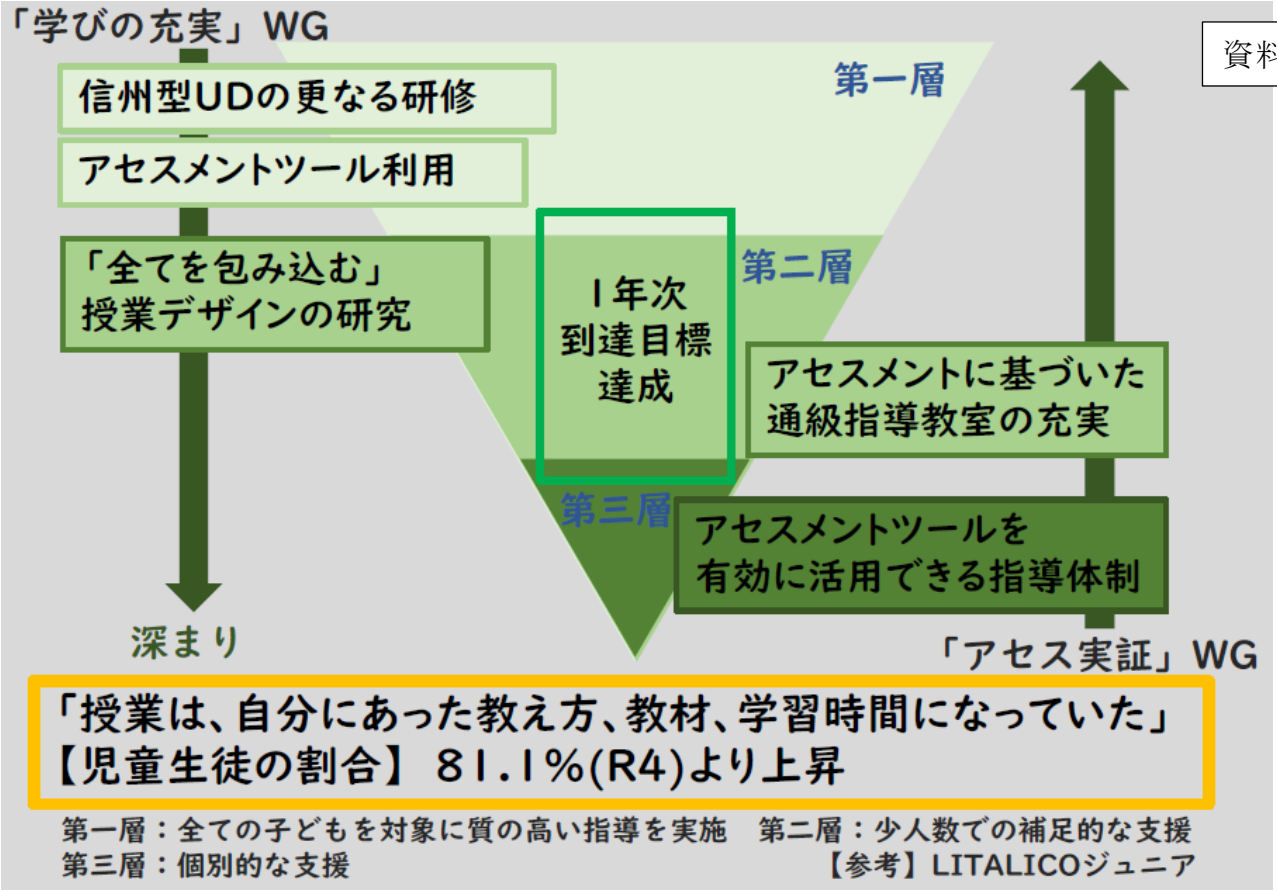
包み込む範囲が広がっていくようなマインドに先生方がなっていって欲しいんですよね

ある研究では、一斉指導の授業デザインの範囲は、68%で、それにフィットしない子どもに注目したいです

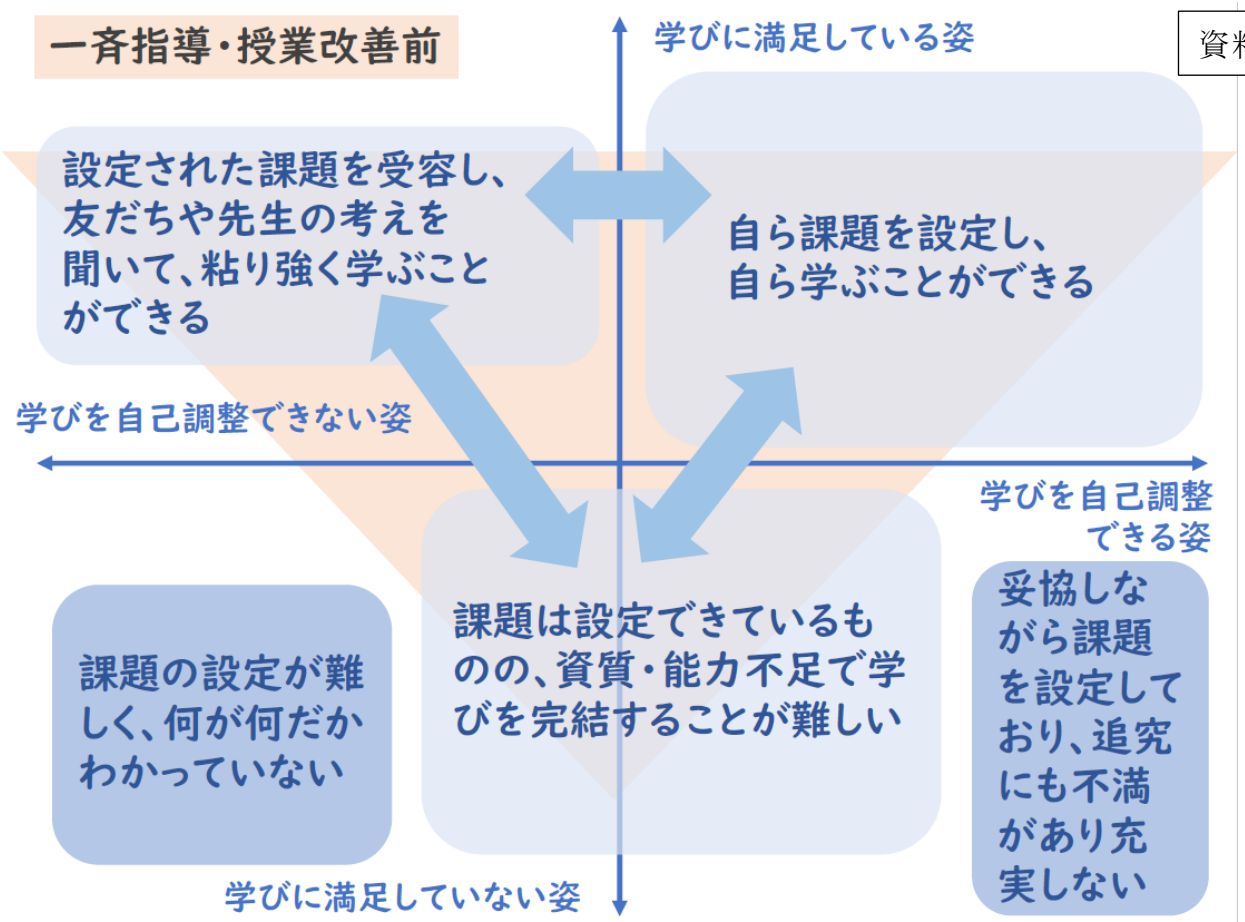
フィットしない子が「教室に入れなくなる」という現象は一緒なのですが、その原因はやはり多様ですよね。授業の「満足度」や「追求の自由度」みたいな点とアセスメント結果の分析も有効かもしれません

子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化については、これまでも十分議論してきた内容ですので、その考え方も参考にしながらまとめられるように考えます

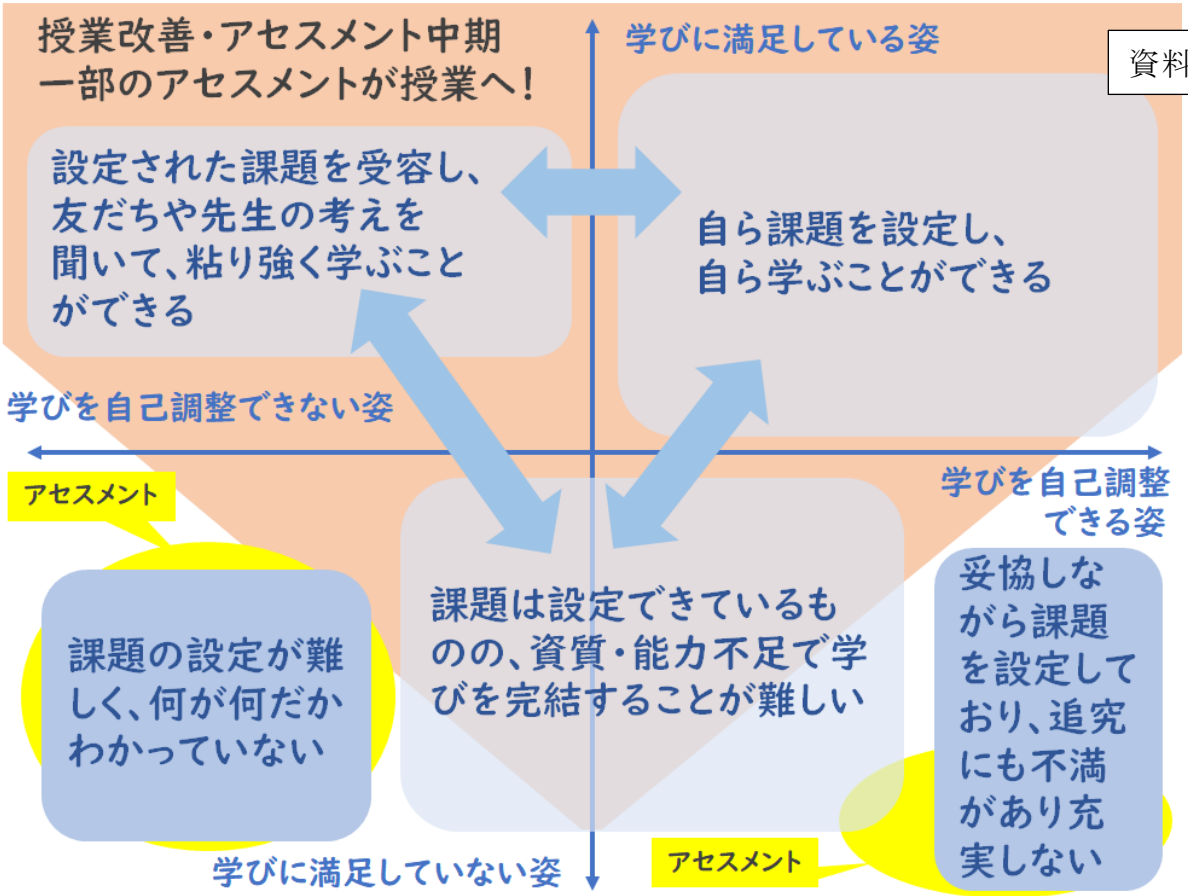
資料 11


「学びの充実」WG
信州型UDの更なる研修
アセスメントツール利用
「全てを包み込む」
授業デザインの研究
第一層
第二層
第三層
1年次
到達目標
達成
アセスメントに基づいた
通級指導教室の充実
アセスメントツールを
有効に活用できる指導体制
深まり
「アセス実証」WG
「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」
【児童生徒の割合】 81.1%(R4)より上昇
第一層：全ての子どもを対象に質の高い指導を実施　第二層：少人数での補足的な支援
第三層：個別的な支援
【参考】LITALICOジュニア

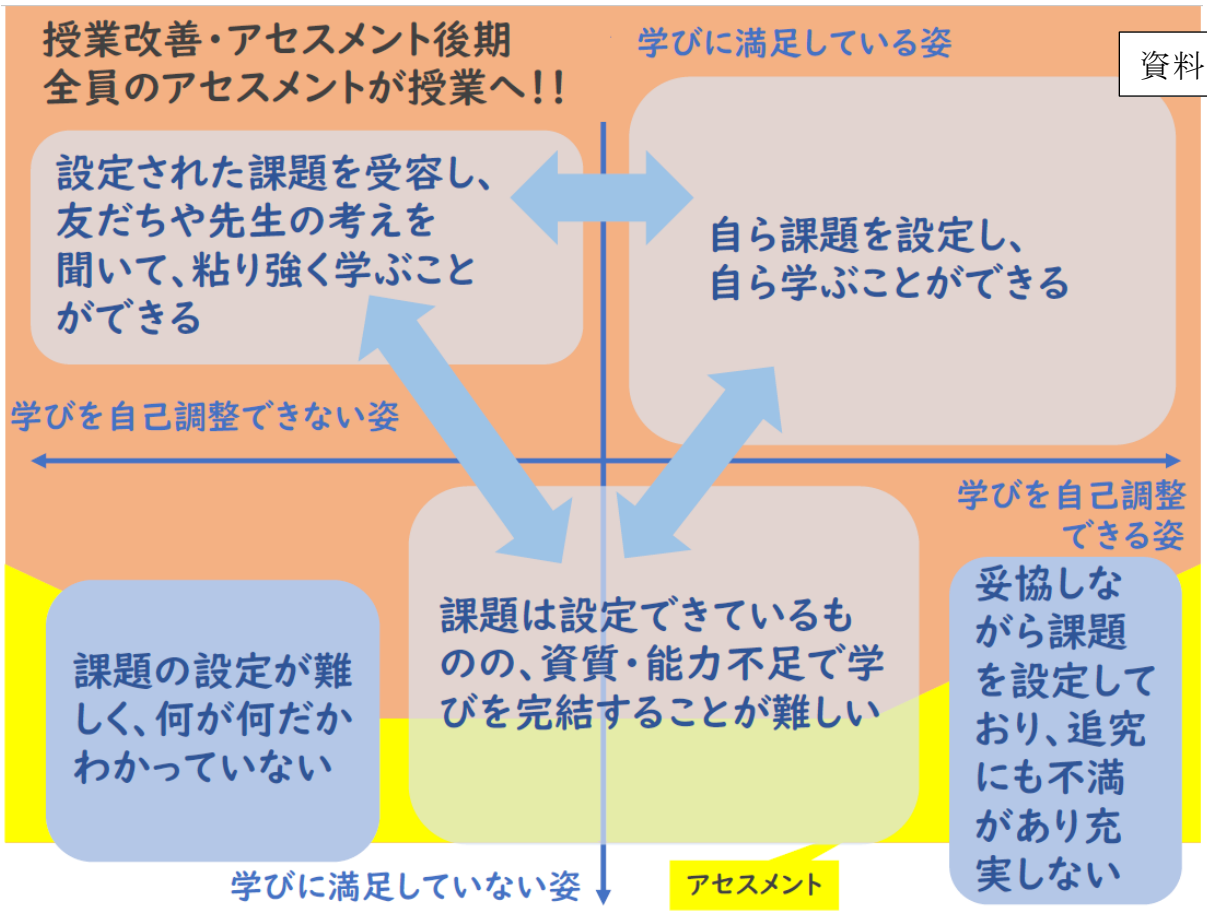
資料 12


一斉指導・授業改善前
学びに満足している姿
設定された課題を受容し、
友だちや先生の考えを
聞いて、粘り強く学ぶこと
ができる
自ら課題を設定し、
自ら学ぶことができる
学びを自己調整できない姿
学びを自己調整
できる姿
課題の設定が難
しく、何が何だか
わかっていない
課題は設定できているも
のの、資質・能力不足で学
びを完結することが難しい
妥協しな
がら課題
を設定して
おり、追究
にも不満
があり充
実しない
学びに満足していない姿

資料 13


授業改善・アセスメント中期
一部のアセスメントが授業へ！
学びに満足している姿
設定された課題を受容し、友だちや先生の考えを聞いて、粘り強く学ぶことができる
自ら課題を設定し、自ら学ぶことができる
学びを自己調整できない姿
学びを自己調整できる姿
アセスメント
課題の設定が難しく、何が何だかわかっていない
課題は設定できているものの、資質・能力不足で学びを完結することが難しい
妥協しながら課題を設定しており、追究にも不満があり充実しない
学びに満足していない姿
アセスメント

資料 14


授業改善・アセスメント後期
全員のアセスメントが授業へ！！
学びに満足している姿
設定された課題を受容し、友だちや先生の考えを聞いて、粘り強く学ぶことができる
自ら課題を設定し、自ら学ぶことができる
学びを自己調整できない姿
学びを自己調整できる姿
課題の設定が難しく、何が何だかわかっていない
課題は設定できているものの、資質・能力不足で学びを完結することが難しい
妥協しながら課題を設定しており、追究にも不満があり充実しない
学びに満足していない姿
アセスメント

資料 15

長野県教委が現在準備している3つの学びの場

A：信州Makers教室キャンプ

学校で学ぶものづくりやプログラミングを
発展的に学びたい小学校3年生から
中学校2年生までを公募で募集
信州大学教育学部や民間のプログラミング
会社と連携して県教育委員会が開催
令和5年度で実施6年目
令和5年度実績
小学生：38人
中学生：36人　参加

C：アドバンス・ラーナー向けスクール

民間事業者と連携し、本年度より実施
大学生等のチューターが伴走支援し、子供
たちが自身が設定した研究テーマを深堀
りする
県教育委員会から県内小・中学校へ周知
夏：5人　冬：13人<長野県内小学生>

B：信州大学ジュニアドクター育成塾

大学の先生から専門的な知識を学び、能力を伸長する体系的育成
プランを対面・オンラインで月2回のペースで半年間実施
令和5年度で実施5年目
信州Makers企画より本年度も9人が参加

長野県教育委員会学びの改革支援課